

★学校教育目標		○ よく考える子ども ◎ 思いやりのある子ども ○ 体をきたえる子ども ○ 最後までやりぬく子ども		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）				○ 確かな学力 知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身に付け、意欲的に学ぶ児童の育成 ○ 豊かな人間性 自己を律し、他と協調して、命を大切に児童の育成 ○ 健康・体力向上 自らの健康増進・体力向上に努め、運動に親しむ児童の育成 ○ 知・徳・体が育つ基礎の構築 苦難や逆境を乗り越えて人生を自ら創造していく児童の育成	
【めざす児童・生徒像】		○ よく考える子ども（知育） ◎ 思いやりのある子ども（徳育） ○ 体をきたえる子ども（体育） ○ 最後までやりぬく子ども（知・徳・体が育つ基礎）			
【めざす学校像】		○ 子供たちが、互いに学び合い成長する学校 ○ 安心して自分の力が発揮できる学校 ○ 教職員がプロ意識をもって、実践し達成感のある学校 ○ 学校・保護者・地域が連携し、信頼し合う、開かれた学校			
【めざす教師像】		「子供にとって最大の教育環境は教師自身である」 ○ 向上心をもち、物事に果敢に挑戦する教師 ○ 和をもって貢献する教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
確かな学力	○ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身に付け、意欲的に学び、課題解決を図る児童を育成し、学力向上を目指す。	○ 確かな学力の育成のために、学習の基礎・基本の確実な習得を図り、言語能力、情報活用能力等の基盤となる資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底を図り、学習内容の基礎・基本を確実に習得させ、学習の基盤を構築する。 ・ICTの活用等を図り、自分に合った学び方を選ばせること、ペア学習やグループ学習を取り入れること等を通して、児童の考えが深まる授業を展開し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・各教科等の発問や授業展開を工夫し、児童自らが考え、互いの考えを主体的に伝え合い、比較・検討することにより、自らの考えを深め、課題解決する力を育成する。 	4	90%以上の教員が、学習内容の基礎・基本を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成する授業を行ったか。	4	児童アンケートで「授業が分かりやすい」と回答した児童が、90%以上	授業が分かりやすいと思わない児童に対する手だても取ってほしい。ICTを扱うことのメリットを生かしてほしい。基礎・基本を定着させるためにはアナログとデジタルのよさを共存させて一人一人に合った学習ができるようにすることが大切である。	95.7%の教員が基礎・基本の習得や思考・判断・表現力等の育成を実施し、90.3%の児童が授業は分かりやすいと感じている。授業のユニバーサルデザイン化について永年研究してきたことを今後も継続し、さらなる授業改善を図っていく。
				3	80%以上の教員が、学習内容の基礎・基本を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成する授業を行ったか。	3	児童アンケートで「授業が分かりやすい」と回答した児童が、80%以上		
豊かな人間性	○ 自己を律し、他と協調して、命を大切に思いやりのある児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、協調性を身に付ける。 ○ 生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情や態度を育む。 ○ 相手意識をもち行動する児童を育成するため、全教育活動を通じて実施する道徳教育を推進する。 ○ 道徳科の学習を要として、思いやりの心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地のよい学校・学級をつくるために、学習や生活における児童一人一人の変容をきめ細かく見取る。 ・学期ごとにアンケート調査を実施し、児童の実態や課題を把握し、いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・児童の課題に対し、生活指導夕会にて情報共有及び共通理解を図る。 ・支援委員会、いじめ対策委員会を中心に、生活指導、特別支援教育の視点から、不登校やいじめ等の対応を図る。 ・学習形態を工夫し、「考え、議論する道徳」の授業を展開し、道徳的な判断力、心情、実践意欲とその態度を育てる。 ・道徳科授業の充実のために、「書く活動」を取り入れ、自己肯定感を高め、命の尊さや思いやりの心等、自他を大切にすることを育む。 ・異学年、通常の学級、ひばり学級、特別支援学校、幼稚園・保育園等との交流や副籍交流を通して、互いを認め合い、相手の立場に立って考える力を身に付ける。 	4	90%以上の教員が、児童理解に努めることができたか。	4	児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が、90%以上	学校を楽しんでいると思うことができなかつた2割の児童にどのようにすればよいか考えることが必要である。時代に応じて楽しさは変化するという人は大切にすることや平等ということは、不変である。また、人として当然のことは行うことについて伝え続けてほしい。	児童理解に努めることができたと考えられる教員は91.7%である。学校は楽しいと回答した児童は80.6%であった。残る19.4%の児童について、今後も全教職員にて組織的に課題の解決にあたる必要がある。
				3	80%以上の教員が、児童理解に努めることができたか。	3	児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が、80%以上		
健康・体力向上	○ 自ら健康増進に努め、運動に親しむ児童を育成し、体力向上を図る。	○ 体育科の授業改善、体力向上週間の取組、休み時間の外遊び等において、体を動かす楽しさを児童自ら実感できるよう指導方法や取組を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の外遊びを奨励するとともに、体育の授業において場の工夫、運動量の確保、ICTの活用を取り入れ、授業の充実を図る。 ・体力向上週間を学期ごとに設定し、体育の時間以外にも積極的に運動に親しむ態度を育てる。 ・地域人材や社会人講師を招き、運動の楽しさを体験する機会を設ける。 	4	90%以上の教員が、積極的に運動に親しむ機会を設けることができたか。	4	児童アンケートで「体を動かすことが好き」と回答した児童が、90%以上	縄跳びや持久走を工夫して進めている。専門性豊かな地域の人材を活用した教育を続けてほしい。休み時間には校庭で多くの児童の中に教員も交じって遊んでいた。けがの防止を図りながら運動できる環境を整えてもらいたい。	積極的に運動に親しむことができたと考えられる教員は89.5%、身体を動かすことが好きと感じる児童が90.3%であった。体力向上週間に全校児童にて確実に実施したことにより高い評価を得たと考える。今後も運動する楽しさを持続するための取組を工夫することが必要である。
				3	80%以上の教員が、積極的に運動に親しむ機会を設けることができたか。	3	児童アンケートで「体を動かすことが好き」と回答した児童が、80%以上		
開かれた学校・特色ある学校	○ 地域教材・地域人材を活用し、体験的・課題解決的な学習を通して、地域や学校に対する誇りと愛着を育み、地域のために貢献しようとする意欲を育てる。	○ 地域の人と出会い、関わり合いながら、わくわくが広がる環境をつくり、生活科、総合的な学習の時間のふるさと学習「日野大好きプロジェクト」を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、学年の発達段階に応じた地域教材、地域人材を活用した学習を実施する。 ・地域への関心を高め、学習したことを地域へ発信・還元できる学習活動を展開する。 ・全学年が、生活科・総合的な学習の時間において、ふるさと学習「日野大好きプロジェクト」に取り組み、地域に対する誇りと愛着をもたせる指導を行う。 ・「安全教育推進校」として、安全教育を重視した課題解決的な学習を行う。 ・総合的な学習の時間においては、児童自ら課題を設定し、探究的に取り組む、課題解決的な学習を展開する。 	4	90%以上の教員が、学習を通して地域に発信・還元をすることができたか。	4	児童の成果物で「地域に対して発信や還元ができています」児童が90%以上	日野を地元としない教員が多い中で地域に発信・還元をした割合が75%という割合は高い。今後コミュニティ・スクールで展開する課題ではないか。地域の中で高学年の児童がリーダーシップをとることができるよう促してもらいたい。	学習を通して地域に発信・還元することができたと考えられる教員は75.0%、地域に発信・還元ができたと考えられる児童が72.1%であった。総合的な学習の時間において調べたことを整理する学習が、地域の課題を発見し、解決に向けて取り組む活動への転換が必要である。
				2	80%以上の教員が、学習を通して地域に発信・還元をすることができたか。	2	児童の成果物で「地域に対して発信や還元ができています」児童が80%以上		
生活規律	○ 学習環境・言語環境を整え、集団生活の規範意識を高める。	○ 日常生活の中で、挨拶や言葉遣い等、相手の立場や気持ちに寄り添った言動を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境・言語環境を整え、場に応じた挨拶や適切な言葉遣いができるよう指導する。 ・朝の会、帰りの会等において、日々の行動や言葉遣い等を振り返る機会をつくり、集団生活におけるルールやマナーを遵守する意識を高める。 	4	90%以上の教員が、学習環境や言語環境を整えるよう努めることができたか。	4	児童アンケートで「返事や気持ちのよい挨拶ができた」と回答した児童が、90%以上	知らない大人には声かけをしても子供は返事をしてくれない。地域としても顔が分かり合えるようにすることが大切ではないか。挨拶週間で復活させるとよいのではないか。小さい児童が一人の時は声をかけにくい。個人を尊重し過ぎることも一考の余地がある。	学習環境や言語環境を整えることができたと考えられる教員が70.8%、返事や気持ちのよい挨拶ができたと考えられる児童が88.3%であった。進んで挨拶をする児童を育成するため、今後も教職員が一丸となり、言葉遣いや挨拶を徹底する指導を繰り返す必要がある。
				2	70%以上の教員が、学習環境や言語環境を整えるよう努めることができたか。	2	児童アンケートで「返事や気持ちのよい挨拶ができた」と回答した児童が、70%以上		